

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 41 号

平成28年4月1日

所蔵作品紹介 (40)

「猫の図」

寺田元吉 作

サンフランシスコ万国博覧会は、1915年2月20日から12月4日までアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで、パナマ運河開通ならびに太平洋発見400周年を記念して催された。32ヶ国が参加し、会期中1900万人が来場した。日本では大正4年のことである。

この博覧会に出品された作品の一つが当館に収蔵されている「猫の図」だ。木の陰からひっそりとこちらを窺うように描かれている猫が印象的な作品である。作者は、寺田元吉氏で大正2年に本校の図案

科を卒業した。驚くべきなのは、この作品が卒業制作の作品だという事だ。残念ながら、彼のその後の活躍を残す記述が本校にはほとんど残っていないが、どのような人物だったのか分からないが、サンフランシスコ万国博覧会に出品するほどだから、当時の工芸学校（当時は富山県立工芸学校だった）のレベルの高さが窺われる。

明治の世から続く工芸高校も創立120年を越える多くの卒業生を輩出してきたが、常しなえに続く事を願う。



(縦 139×横 58cm)

11月12日(木) ~
11月29日(日)

各賞受賞者

A painting of a traditional Chinese courtyard. In the foreground, there are dark, horizontal wooden beams or steps. In the middle ground, a wooden gate with vertical slats is visible. To the right, a traditional Chinese building with a tiled roof and a wooden door is shown. The background is a bright, hazy yellow-green, suggesting a distant landscape or a bright sky. The overall style is traditional Chinese ink and wash painting.



平成27年度 表彰者一覧

各学科で学んだ3年間の集大成として、個人やグループでテーマを決めて半年から一年間かけて制作した作品を一堂に展示した。



優 秀 賞

機 械 科「三輪自動車の製作」

川原 陸人・堤 健・中村 光希
西塚 拓哉・藤田 裕智・村井 仁
米島 優

電子機械科「3Dプリンターの製作」

吉野 友貴・太田 健生・澤潟 暁翔
鍛冶 壮・斎藤 建弘・坂口
中谷 隼人

電 気 科「セントリーガンの製作」

林 雅哉・オ川 蒼太・柴田 凌輔
吉田 史生

建 築 科「まちのしりと」

松高 優大

土木環境科「コンクリートカヌーの製作」

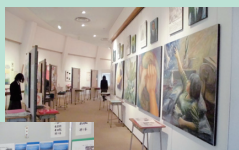
金森 史弥・坂井 鷹輝・土屋 日向
野原 康佑・藤井 徹太・前畑 宙也
松田 健宗・宮城駿一朗

工 芸 科「コレクションテーブル」

古川 真帆

デザイン・絵画科「図書館を軸とした複合型公共施設の提案」

今川 智加



平成27年度 課題研究作品展

2月20日(土)～
3月3日(木)

「素晴らしいものづくり」

教頭 六家 敬吉

平成27年度の課題研究作品展が、平成28年2月20日(土)～3月3日(木)まで、本青井記念館美術館において開催されました。

本展覧会は、本校において3大美術展(尚美展・青井中実展・課題研究作品展)の一つであり、以前は、卒業製作展と呼ばれ、三年生が入学以来学んできた専門に関する学習の集大成の作品展です。

グループや個人で作品・研究を完成する課程は、各学科でそれぞれの違いはありますが自分たちの誇りをかけて製作・制作した作品の数々が展示されました。自分たちの作品を通じて、工芸高校で学んだ自分の姿を投影し、またそれを在校生が感じ取り、次年度の自分たちの作品に反映する。このような流れが本作品展の特徴だと考えております。

今年も多く生徒・保護者・市民の皆様方にご鑑賞頂き、数多くの暖かいご意見を頂戴いたしました。無論ご意見の中には、厳しいものも頂いております。そのようなご意見があるからこそ、私たちは、逆に本展覧会が大きな注目を頂いていることを、しっかりと受け止め、より良い作品を生徒諸君が制作できるよう指導に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、ご鑑賞頂いた方々には改めて、感謝申し上げます。

優 秀 賞

「課題研究を通して
(三輪自動車の製作)」

平成27年度 機械科卒業生

西塚 拓哉

私たちは、授業で習ってきた技術を活かし、七人の共同で三輪自動車を製作しました。

はじめに自動車の構造について意見を出し合い、車体の形や動かせるための動力源などを決めていきました。車体では、できるだけ軽量にするため無駄のない設計しました。動力源はエンジンだとしても危険性が高く、またモーターだと高い出力が必要になるので、搭載できません。そこでアシリンクを用いることにより、簡単な構造で強い動力を得ることができました。また、加工の面では、寸法通りに鉄の棒を切ったり、切った鉄の棒を溶接したりなど単純な作業が思ったよりはかたくなったが、班員全員で協力して完成させることができ、また無事に運転させることができたのでとても嬉しかったです。

課題研究を通して、またものづくりを通して、新たなことを見出す楽しさや楽しさ、仲間と協力して作り上げる楽しさ、やり通した達成感など様々なことを体験でき、大変良かったと思っています。

今回学んだ事を社会に出ても活かしていきたいと思います。

尚美展関連作品展

平成27年 10月10日(土)～10月25日(日)



昨年引き続き今年も尚美展関連同窓生作品展に参加させて頂き、感謝しています。

世代を越えた幅広い年齢層、さまざまなジャンルの同窓生たちの作品が集まっており、高岡工芸高校の卒業生の一員として展示に加われたことを大変嬉しく思います。いろいろな方面で活躍されている先輩方の背中を追いかけて、私も制作を続けていきたいです。

高田 望 (平成23年 デザイン科卒業)

幕末から明治時代にかけて、維新による急激な価値観の変化と西洋化により、日本の美術は存在そのものが危機状況に陥りました。

そんな中、高岡工芸高校初代校長の納富次郎が十数名が、上野の不忍池にある弁天堂にて我が国初の展覧会「竜池会」を開催しました。それから約150年、同じく先人達から紡いできた同窓展も次の世代へ繋いでいきたいと思います。



尚美展同窓生作品展に寄せて

金沢大学教育学部教授

大村 雅章 (昭和54年 デザイン科卒業)

今年度は、挿し絵作家として活躍の佐竹美保さんの原画(特別出展)をはじめ、24名、37点の作品を展示することができた。また、佐竹氏が本校の創校記念講演会の講師として来校された機会に、デザイン・絵画科の生徒に作品の解説会も行われた。



コレクション展 Ⅲ期

平成27年12月12日(土)～

平成28年2月7日(日)

江戸期から現代まで 金工展



蠟型鑄造師の初代須賀月真
叟松園、本校初代彫金科教師
の関義平、人間国宝の金森映
井智、芸術院賞受賞者の大角
勲の作品をはじめ26名、36点
を展示した。

コレクション展 Ⅳ期

平成28年3月12日(土)～4月10日(日)

文化勲章をデザインした彫刻家
畑 正吉展

平成26年度の寄贈
作品と既存作品(昭和
37年に寄贈)の36
点を展示した。



作品

・ 出山釈迦像(木彫)、去邪(フロンズ)、葵上
翁、熊野、能面、羅漢像木彫額、メダル他

略歴

・ 明治31年木材彫刻科(速成科)第一期生として卒業
・ 明治39年東京美術学校彫刻科卒業
在学中は高村光雲の指導を受ける
・ 明治40年農商務省海外実業練習生としてパリ留学
・ 明治43年帰国
・ 大正元年東京美術学校奉職
・ 大正8年東京美術学校教授
・ 大正9年造幣局 賞勲局の嘱託として文化勲章とメダルのデザインをした
大正11年東京高等工芸学校教授
(現千葉大学工学部)
・ 昭和17年退官
・ 昭和41年5月勲三等瑞宝章受賞
・ 同年6月84歳で死去

企画展

● ギャラリーD(デザイン・絵画科) 1月16日(出)～2月14日(日)
● 工芸科作品展(工芸科) 3月15日(火)～4月10日(日)

日頃の制作成果を発表する機会を設けてほしいとの生徒要望を受け、生徒作品展を開催した。

第1回デザイン・絵画科作品展「gallery D」に出展して

1年 土佐 悠夏

私はギャラリーDで「消しゴムハンコ」を制作しました。消しゴムをカッターで削ってハンコの形にするもので、今回初めて挑戦しました。とても細かく、一発勝負なので難しかったです。削りながら、どこをどうしたら良いか考えて頑張りました。できたものを押してみても、すこすきれいでした。一色で押すだけでなく二色、三色とモチーフに合わせて色を組み変えたり、色を混ぜてみたりしました。試行錯誤しながら、一つの作品を作り上げることはとても楽しかったです。

2年 山田 裕也

自分と同じ世代、同じ学校にいる人たちの作品を見る機会は滅多に無く、とても貴重な経験になりました。私の作った「シャチカエル」は名前の通り、シャチとカエルが好きで混ぜてみたもので、「福来る」は表情の変化を能面のように怪しく描いたものです。作品というものは、その人の生き方を全て写し出す、と私は考えます。同じ時間を生きた中でも、これだけ感じ方の差があり、そしてこれからも変化し続けるものだと思います。

3年 千葉 崇晴

青井記念館美術館に足を運んだ。気が付くと、あつという間に一時間半が過ぎていた。それくらい見ごたえのある作品が多かった。特に自主制作の作品は生き生きとしていて、見ていて楽しかった。私は課題研究作品展のポスター、レタリング(製図)を出品したが、他の作品と比べて道具を使いこなせていないと感じた。まだまだ勉強する必要があることを教えてくれた展覧会だった。

寄贈作品の紹介

◆ はぐくみ会会長

玉井 晶夫 作

・「朝の有磯海」
・「けあらし」

以上2点

(昭和37年図案絵画科卒)



はぐくみ会会員募集のお知らせ

年会費(年1回納入)

・ 一般会員(個人)

2,000円

・ 特別会員(企業・団体)

10,000円

・ 会費納入は下記へお願いします。

(直接事務室への納入も可能です。)

銀行 富山信用組合高岡北支店

口座番号 20111105

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

郵便局

口座番号 0071010131367

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

詳細は青井記念館美術館の事務担当者までお問い合わせください。

連絡先 高岡工芸高校

TEL (0766)211-1630(代)

編集後記

今年度、企画展として本校生徒による作品展が開催されました。普段の授業での成果や自主的に制作された作品などバラエティに富み、学生の若い感性が美術館を賑やかせました。工芸高校には現在7学科あり、約810名の生徒が在籍しています。高校に併設されている美術館としてもっと学生に身近な施設を目指して、同窓生との繋がりが大事にしながら、今後の日本を担う若者が気兼ねなく学び指針となるような美術館を目指して参りたいと思います。(中野 雅恵)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒933-8518 高岡市中川一ー二〇

TEL (0766)211-1630

FAX (0766)211-1631